



2014.06.05
 FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW
 FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW
 FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW

今回は、名大祭などでユニセフ班がフェアトレード商品を仕入れさせていただいているフェアトレード商品のお店「風's」の土井さんにお話を伺いました。フェアトレードということを知るだけでなく、起業のことなどについても知ることができました。

**インタビューに答えてくれた
土井さんのプロフィール**



今回、私たちユニセフ班のインタビューに快く応じてくださいました。

土井ゆきこさん

フェアトレードショップ「風's (ふーず)」の店長さんです。「風's」はウィルあいちの一階にあります。

フェアトレードの背景・お店の起業についてのインタビュー

—フェアトレードショップを開くまで

1996年5月8日ウィルあいちがオープンするにあたってテナントの募集に応募し、「共に生きる」というコンセプトが受け入れられてウィルあいちにテナントとして入ることになりました。意識の高い人が出入りするのですがくつながりやすいと思います。フェアトレード商品をほとんどの人が知らないし、フェアトレード商品だと意識して買うわけじゃありません。私の店で買って初めてフェアトレードを知ったという人が多いし、一つのきっかけにはなっていると思います。

—お店の起業まで

店は10年目です。自分の生き方の中で、「子供3人育てながら生涯現役でいきたい、社会に役に立つことができたらいいな、自分を試してみたい。」とかいろんな想いがありました。そんなとき、女性起業セミナーでたまたま「フェアトレード」という言葉に出会いました。講師の人がある本に書いてある事を取り上げて、フェアトレードの説明をしていて、途上国を支援する目的の貿易があるという事に非常に感動しました。

—過去の経験につながる

女性起業セミナーで「途上国の人をサポートする支援することができる貿易がある。」と聞いた時に感動したのは、自分が何年か前に聞いて何も手立てがないんだと思ったことに、ひとつの選択する方法があるということに気づいたからだと思います。聞いたその時にそう気づいたのではなく、後からインタビューなどされてあの時間聞いた話がきっかけになったのではないかと思います。

下の写真は土井さんとユニセフ班のインタビューアターの写真です。



—子育て中の頃聞いた話

子育て真っ最中のころ、あるコンサートで「私たち日本人が食べているバナナやエビやマーガリンの材料は東南アジアで作られていて、生産者は貧しい生活をしている。生産に使う農薬のことも含めて、その人たちの生活を犠牲にして日本の食卓は成り立っている。」ということを知りました。



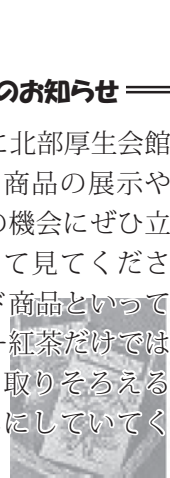
ただショックを 受けただけ 動けなかった

それまで私はそういうことを一切知らなかったんです。だからとってもショックだったんですよ。バナナがプランテーションで農薬をかけて育てられていて、それこそスイッチひとつでヘリでワーっと上からかけられたりしている。そこにすんでる子供たちは上半身裸で皮膚病になったりして命落とす人がいるとか。

エビについて言えば、日本では無頭のエビがパッケージになって並んでいるけど、あれは東南アジアの人たちは寒い中で頭を切り落とす作業をしてできた物です。貧しいので、その切り落としたエビの頭をスープにするなどして食べるそう。私はそれまで、そんなこと思いもしなかったから非常にショックでした。でも、ショックはショックでそこで終わっていて。結局えびを食べなくなってバナナを食べなくなっただけでした。

—ユニセフ班からのお知らせ—

12/5 ~ 12/12に北部厚生会館でフェアトレード商品の展示や販売をします。この機会にぜひ立ち寄って手にとって見てください。フェアトレード商品といっても、有名なコーヒー紅茶だけではなく色々なものを取りそろえる予定なので楽しみにしててくださいね。



—途上国の現実

日本では、水なんてひねれば出てくるのが当たり前になっていますが、途上国では毎朝、女の人や子供が水汲みをしています。水を汲んでくるのは重いし、本当に大変なことです。でも、そういうことをやってしか得られない人が多いし、それでもきれいな水を得ることができればいいほうで。今のイラクやアフガニスタンのように、戦争の犠牲になってるところではそんな水だってなかなか得られないんです。

—私たちが考えなくてはいけないこと

本当にたまたま、憲法9条に日本は支えられたことや戦後復興などのおかげで、先進国に入っているけれど、私は“極上の生活をしている”って意識を持ってないですよ。生まれてからそれが当たり前だと思っているから。反対に多分戦争をやってる中で生まれた子は生まれてこの方それが世界だと思ってるだろうね。そんなことひっくるめて地球があるわけだけど、そんな全体を考えて生きていかないといけないと思うんです。戦争がなよりの環境破壊で人権破壊だと思うけれど、そういうこと考えて行動して生きていかないといけないの。だから何のために勉強するかっていうのにも視野を広げてやってほしいと思います。



FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW

FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE INTERVIEW FAIR TRADE

—世界を考えるきっかけにフェアトレードはなりうる

例えばココアでも、買人が買いにくると自分たちが働いた分に見合ったお金すらもらえないんです。なぜかという、買い叩いて儲けようとするから。ココアを作った人たちはトラックとか輸送手段がなく、買い叩かれても売らなければ現金を得れないから売っています。例え、その人たちのことをコヨーテと呼んでいるくらい搾取されていても。



途上国の人たちは 選択肢がない

イギリスの団体が民主的に運営する組織を作って、工場も作って自立できるようにサポートして、なおかつ販路も広げていって形でフェアトレードを始めた。途上国の人たちが自分たちでやっていこうと思ってもできないわけです。

それぞれ地域のことからいっても、地域の有力者っていうのはそれぞれ政治の経済も警察も握っているから気に入らなければ消してしまえばいい。でもそういう団体の組織があると簡単には消せない。そんな風に途上国では貧困のサイクルからなかなか抜け出すことができないけど、先進国が少し手を差し伸べることによって浮き上がっていくことは可能。途上国の人には無い選択肢が私たちにはある。

途上国でも裕福な人とか教育を受ける機会を得た人、その中でもそういう貧しい落差に心を痛めている人はいる。その人たちが何かできないかとしても、例えば何かを作っても売るところがなければお金にならなければ仕事になっていかない。そこを先進国のフェアトレード団体とつながることによって販路ができてまわってくる。

自分たちで したいと思っても できない

—名大生に伝えたいこと

今すごい混沌としてると思います。昨日オーバービーさん(退役軍人、大学教授、アメリカ人 79歳)の公演に行ってきました。彼は憲法9条を世界の憲法にしたいと言っていました。日本にいて私たちが平和に生活してきたのは憲法9条があったからこそで、それを忘れてはいけないと思うんです。

フェアトレードというのは本当に頭でっかちに考えないでほしいと思います。現実コーヒーを飲まない人は多くありません。好き嫌いはあるけど世界で3番目の消費国だし、チョコだって食べない人は多くないと思います。

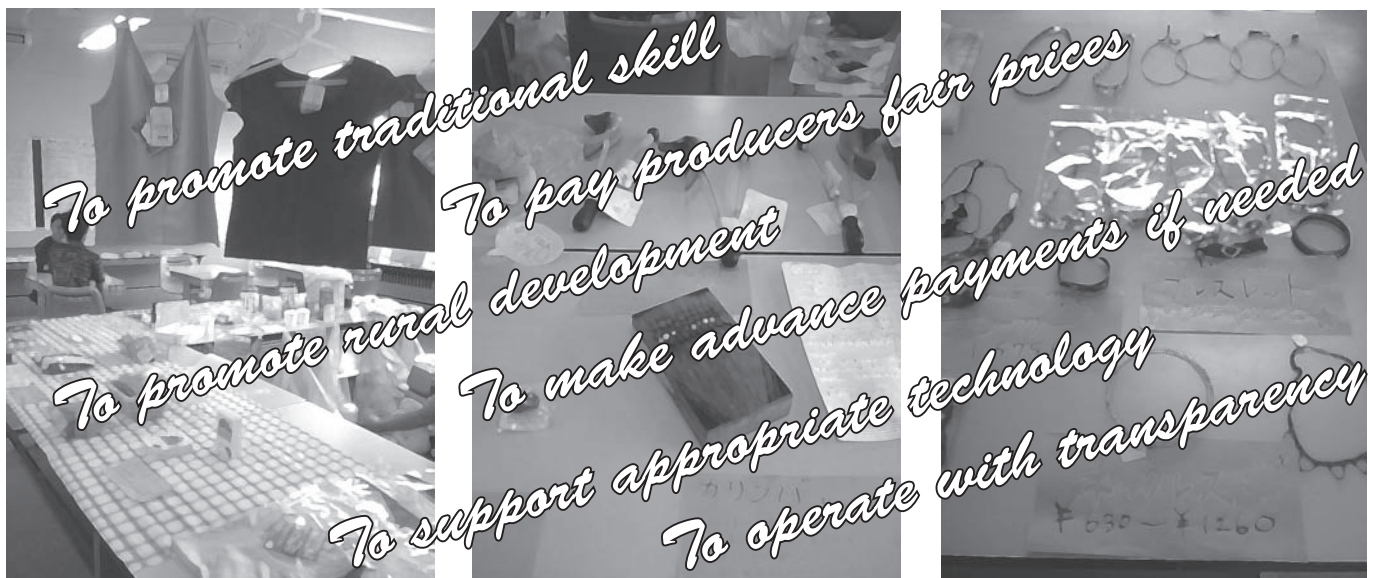
でもその材料はすべて赤道を中心とした途上国。あと、携帯の材料にしても結局アフリカでそういうものが出るから戦争の種になっていきます。そして内戦が続くから若者たちがいなくなると今度は少年兵になっていくのです。少年兵が銃を持ちやすいように銃も軽くなりました。世の中、世界中に目を向けたらもう悲惨なことが次から次へと起こっています。



フェアトレードに関わっていることがきっかけとなってそういった情報が入ってきています。まずは知ることが大切。知ること、何ができるかって選択できるようになります。私たちがそういう立場にいるのだから。安いもの買うことによって間接的に加害者になってるということを知ってほしいと思います。



12月5日から12日までの北部生協の玄関でフェアトレード商品を買ります。いろいろな商品を用意する予定なので、ぜひ一度来てください。ほかにも、ユニセフのグッズの展示やフェアトレード商品の展示なども行う予定です。



写真はユニセフ班が名大祭の時に売っていたフェアトレード商品の写真です。

—あとなぎ

今回は、フェアトレードグッズを取り扱っているお店、「風」sの店長さんに話を伺いました。フェアトレードという取引の話から、現在普通に売られているものには途上国の人が搾取されて市場に出ているものがあることや、フェアトレードから世界の情勢につながっていくことなどを知ることができました。現在、フェアトレード商品を街中の普通のお店で見かける機会が増えてきたように思います。それはやはり、フェアトレードの商品を手にとった人がいたからこそその結果だと思えます。支持されて活動が広がっていることは、フェアトレードに携わる活動をしている私たちにとってすごくうれしいことです。フェアトレードの背景にある現実を少しでも多くの人に知ってもらえるように今後も活動を続けていきたいと思えます。そして、この記事を読まれて、フェアトレード商品を見かけた時に手にとろうと思っていただけたら幸いです。

編集: unicef班広報部